

## ○敵前逃亡の安倍総理。皆が啞然

安倍総理の突然の辞任劇には、衝撃が走りました。本会議の代表質問に立つ予定だった鳩山幹事長や長妻議員が、本会議が始まる直前の代議士会で闘志を燃やして演壇に上がる決意表明を述べていた、その直後の混乱でした。「少し本会議の開始が遅れそう。どうも、官邸の都合らしい。」という話が伝わり、しばらくして、「安倍総理が辞めたいと言っている。」ということになって、皆が啞然としました。「こっちが張り切っているのだから、安倍さん、それを肩透かしで、敵前逃亡とはひどいよ。」そんな心境です。

テロ特措法で、小沢さんに党首会談を断られたからとか、公明党が見切り始めたからとか、心身に限界がきたからとか、辞任直後には様々な理由が本人や周りから出ていました。しかし、本当の理由は、はっきりしません。このタイミングで、なぜ唐突に辞めるのか。周りを納得させる説明ができないことが情けない。海外メディアも取り上げていますが、日本の政治リーダーは、なんと「ヤワ」なんだろうと、侮られてしまうようなことがあってはならないと思います。安倍さんを総理に選んだ自民党にも責任があります。

新しい総理が、テロ特措法をめぐる攻防の中で、国民に信を問うことになれば、年末から年始にかけての総選挙だと言う声も出ています。

## ○新ポストは「次の財務大臣」

今回の党内人事で、国会の駆け引きを受け持つ国対を離れて、古巣の政策分野に戻りました。党の「次の内閣」財務大臣です。国会では財務金融委員会の筆頭理事を務めます。衆議院に当選したての橋本内閣のころには、この委員会に所属をして、金融ビッグバンやバブル崩壊後の不良債権問題に取り組みました。久しぶりに古巣に戻ったことになりました。委員会は、他に、予算委員会にも所属をすることになりました。これまでは、枝野議員と私で理事を務め予算委員会の切り盛りをしてきました。今後は、岡田さんと前原さんの代表経験者が最前線に立って陣頭指揮する体制となりました。楽しみです。

## ○地道に国会での論戦を

国会が正常化すれば、私たちは、参院選での公約に従って、出来上がった法案から参議院に提出します。年金の留保資金を原資にして、リゾート開発や、車、事務費などに流用していた問題に対して、給付以外の流用を認めないとする、「年金資金の流用禁止法案」。また、法改正により、障害者の介護で個人負担分が支払い能力を超えて請求され、現場の混乱を招いている「障害者自立支援法」。この法律を一時凍結するための「自立支援法凍結法案」等々、税や雇用分野などで身近な法案を成立させることで、実績を積んでいこうと言っています。

テロ対策特措法の延長は、反対する方向で、党の内部議論は固まってきました。アメリカが日本の参加を求めたから、日本は、国連のもとに活動する従来からの PKO 法を超えた特別法を作って、インド洋の給油や航空輸送の根拠法にした。アメリカは、自衛権を発動してテロと戦っていると言っている。ヨーロッパ軍は、集団的自衛権の行使で軍隊の派遣をしていると説明している。日本だけが集団的自衛権の行使による派遣ではないという理屈では、もともと無理のあった問題です。原点に戻って憲法とのかかわりを政府に説明させる必要があること。これまで隠してきたインド洋での自衛隊の活動の実態が、参議院の国政調査権を発動する事で表に出れば、日本が給油している艦船は、アフガン作戦だけでなくイラクへの軍事作戦に使われている事実が判明する可能性がある。これらを質疑ではっきりさせていくことです。

武力一辺倒のブッシュ大統領に対して、アメリカ世論も限界を認め始めて、大きく揺れています。自衛隊の参加のみが国際貢献だと喧伝する日本政府に、「目覚めよ日本。軍事参加にこだわらず、我々にふさわしい国際貢献を考えて、アメリカを説得する勇気を持とう。」と主張する大きなチャンスでもあるのです。アメリカ人は、最終的には、言うべき事をハッキリ言う人に敬意をはらうのです。真のパートナーであるためにも、ここが頑張りどころです。